

芸術と社会の交差領域におけるメディアエーター育成事業

共生と分有のトポス

公立大学法人京都市立芸術大学

京都市立芸術大学新キャンパス (2023年10月ー)



① 人材育成目標

目指す人材像・人材が必要な背景：

京都市立芸術大学が移転した崇仁と隣接する東九条の二つの地域は、現在、再開発のただ中にあります。見慣れた風景が変化するなかで地域に根付く独自の文化や暮らしはどのように変わっていくのでしょうか。そして、この問いは移転によって再編される大学そのものにも向かいます。芸術大学は、新キャンパスと新しい風景の中でどのように再構築されるべきでしょうか。このプロジェクトでは、自分たちが知っていることや持ち合わせている技術を一度、疑い、立ち止まり、深く考えるところからはじめて、大学内の三つのグループと地域が協働する形で、共に生き、何かを共有するためのプログラムに取り組みます。



育成対象者：

プロジェクトを通して、ともに芸術実践に関わる知識と経験を深化させていくことに意欲を持ち、対面での協働作業に積極的に参加できる人を募集。

例) アートマネジメントを目指す大学院生や社会人、行政の文化政策やまちづくり担当者、社会との関わりに意欲をもつアーティスト、開かれた美術館のあり方を模索する学芸員、創造性を活用した教育を目指す教員や教育学部の大学院生、コミュニティーアーカイブの作成を目指す市民



キックオフ・ミーティングの様子

② 育成プログラムの内容

京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts



@KCUA
KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS ART GALLERY

美術学部・芸術資源研究センター・ギャラリー@KCUAが連携し、プロジェクトを実施

プロジェクトリーダー：

佐藤知久（本学芸術資源研究センター専任研究員／教授）

田中功起（本学美術学部構想設計専攻准教授）

藤田瑞穂（本学ギャラリー@KCUAチーフキュレーター／プログラムディレクター）

森野彰人（本学美術学部陶磁器専攻教授）

本プログラムで身につける

3の技術

聞くこと

物語ること

状況の再構築

テーマ1：環境 | 「聞くこと」——地域の再開発のなかで

テーマ1では、地域に根付く独自の文化や暮らしに着目します。土地の歴史をめぐるフィールドワーク、オープンダイアログ、マダン、アクティヴィズム、福祉、演劇など、互いに近接するさまざまなリサーチ方法を学び、将来へと受け継ぐべき記憶と課題を探り、分断を越えて人々のつながりが創出される場をデザインします。

サイト・ビジット

主に京都市南区東九条で行われてきた活動について、
実際に現地に足を運び、これまでの取り組みについてお話を伺う。



フィールドワーク

その一部が京都市立芸術大学の新キャンパス内に流れ、
大学と周辺地域をつなぐ存在となっている高瀬川を
中心としたフィールドワークを実施。

江戸時代に運河として開削された人口河川である
高瀬川沿線の人々の暮らし、生態系、歴史についてリサーチを行う。

レクチャー

人類学の観点から「環境」を捉えるためのレクチャーを実施。



パフォーマンス+ディスカッション

ラッパーの聖地・川崎育ちの、在日コリアン2.5世・FUNI。
在日コリアン集住地域・東九条育ちの、日本人・浜辺ふう。
コリアに繋がる表現者という共通項で出会った2人の
アイデンティティの葛藤が、語りとラップで共有されていく。
話しながら思いついたことをどんどん実践していく、実験的なラップ会話劇。



テーマ 2：ケア | 「物語ること」——地域文化の再発明

テーマ 2 では、再開発によって変化していく地域の文化を再解釈、再発明することにつながる語り方について考察します。

講師には、さまざまな地域でリサーチやアートプロジェクトを行ってきた多様な領域の専門家を招き、レクチャーを通して、地域社会への実践的なアプローチの技術について学びます。

ケース・スタディ

国内のさまざまな地域で展開しているアートプロジェクトの事例について学ぶ。





レクチャー

社会学、人類学、アクティビズムの観点から「ケア」を捉えるためのレクチャーを実施。

アーカイブとドキュメンテーション

具体的な事例を参照しながら、活動を言語化する手法について学ぶ。

テーマ 3：公共空間 | 「状況の再構築」

——何が共有され、何が失われていくのか

テーマ3では、テーマ1、2での学び、体験に並行して、再開発によって急激に変化していく崇仁・東九条・京都市立芸術大学新キャンパスでの活動について考察・実践します。それは古い課題に新しい光を当てることでもあり、自明に思われることにもう一度目を向けることでもあり、あるいはアートを再び社会のなかに再配置する行為でもあります。





③ 育成成果報告

2024年度プログラム参加者

- ・学生：京都市立芸術大学・大学院、京都大学、嵯峨美術大学、成安造形大学、名古屋芸術大学大学院、立命館大学、医療系専門学校
- ・実演家：アーティスト、クリエイター、作家、茶人、デザイナー
- ・文化施設職員：京都芸術センター、御殿山生涯学習美術センター
- ・公共機関職員：医師（国家公務員）
- ・民間企業：会社員（企画職等）
- ・その他：個人事業主、主婦、無職

2022年度、2023年度プログラム参加者

- ・学生：京都市立芸術大学・大学院、同志社大学大学院、医療系専門学校
- ・実演家：イラストレーター、クラフトマン、クリエイター、デザイナー
- ・文化施設職員：市川市文化振興財団、神戸市民文化振興財団、御殿山生涯学習美術センター、たんぽぽの家
- ・公共機関職員：大阪大学、京都大学
- ・民間企業：会社員（広報職、行政事業担当、出版社、マーケティング・販促担当等）

④ 今後の実施予定（将来展望）

今後のプログラムのなかで、参加者自身が考え、アイデアを出し、手を動かして何かを作り出していく回を複数実施しています。そこから発展させた活動のアイデアの交換なども行います。

また、本事業は今年が3年目となりますが、「テーマ3」の延長線上にあるワークショップを来年春に実施するなど、次年度以降も継続した取り組みを行っていけるよう計画中です。

